

令和六年度  
名寄市立大学  
一般選抜 後期日程

小 論 文 問 題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

\*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、受験票、HBの黒鉛筆またはシャープペンシル（シャープペンシルの芯はケースから取り出したもの）、消しゴム、鉛筆キヤップ、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋・箱から取り出したもの）以外、不要な物は置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は静かに手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

心理学者のロイ・バウマイスター博士とマーク・リアリー博士の論文によると、ヒトは持続可能でポジティブな人間関係を形成し維持することを望む「所属欲求(Need to belong)」を、基本的欲求の一つとして持っているといえます。ヒトにとって集団で生活することは、食料を獲得したり、外敵から身を守ったり、生殖や子育てをしたりする上で有利であり、単独で生活するよりも生存できる可能性が高かったためであると考えられます。

コミュニケーションが私たちにとって必要不可欠であることは、裏を返すとコミュニケーションが不足すると様々な問題が生じてくることとなります。

多くの人は、他人とコミュニケーションをする機会が減ると、寂しいという感情を抱くでしょう。心理学の分野では、人間関係が質的または量的に不足しているときに生じるネガティブな感情を「孤独感」といいます。孤独感と心の健康は密接に関わっています。ドイツで行なわれた約1万5千人を対象とした大規模調査の結果、孤独感の高い人は、うつ病や不安障害の傾向が高く、自殺願望が強いことが報告されています。

東北大学加齢医学研究所では、孤独感が脳に与える悪影響について検討がなされました。平均年齢約20歳の大学生776人を対象に、孤独感と脳の容積の関係を調べました。その結果、孤独感の高い人は(中略)前頭前野をはじめ、言葉や感情、表情の読み取りなどコミュニケーションに関わることが知られている幅広い脳領域の容積が小さいことがわかりました。この研究の結果から、孤独感の高い状態が続くと、共感や他人の気持ちを推し量るといったコミュニケーションに重要な役割を果たしている脳の機能が衰えていってしまう可能性があると考えられます。

仲の良い友人や、愛する家族とのコミュニケーションは楽しいものです。一方で、ときにコミュニケーションにおいてトラブルを抱えてしまうこともあります。例えば、誰かに酷いことを言われたり、仲間はずれにされたりしてしまうこともあるでしょう。社会的な動物である私たちヒトにとって、集団から排除されてしまうことは生死に関わるほど重要な問題となるのです。そのため、ヒトの脳は他者からの評価や、集団から仲間はずれにされることに対して、極めて鋭敏に反応するようにできています。

誰かに傷つけられたり、仲間はずれにされたりしたときに、「心が痛む」と表現することがあります。興味深いことに、人間の脳の中では、身体的に傷ついたときに感じる痛みを処理する脳の領域と、心が傷ついたときに感じる痛みを処理する脳の領域と、心が傷ついたときに感じる痛みを処理する脳の領域が同じなのです。誹謗中傷のことを「言葉の暴力」と表現することがあります。脳科学的には単なる比喩では済まされず、拳で殴っているのと大差ないのです。

痛みというのは、生物にとって生命を維持するために必要な感覚です。もし私たちが痛

みを感じなければ、自分の身体についた傷や病気の症状に気がつくことができず、知らぬ間に命を落としてしまうかもしれません。同じように、誰かに酷いことを言われたり、仲間はずれにされたりしたときに、心に「痛み」を感じなければ、いつの間にか独りぼっちになってしまいます。

前述のように、私たちの祖先が生きた時代では、単独での生活は集団での生活と比べて命が危険にさらされる可能性が高く、生存に不利でした。現代の社会においても、例えば赤ちゃんにとっては親や周りの大人たちが近くにいなくなってしまふことは、やはり命の危機と直結するほどの重大な問題です。急いで泣き声をあげて自分の存在を知らせなくては いけません。このように、心が「痛み」を感じることは、命を守るために備えられた脳の機能の一つといえるでしょう。

(『スマホはどこまで脳を壊すか』榊浩平著・川島隆太監修)

朝日新書 二〇二三年より)

問 心が「痛み」を感じるについて、あなたの考えを八〇〇字以上一〇〇〇字以内  
で述べなさい。